

「図書館友の会やまぐち No. 21」(2013年10月15日 図書館友の会山口県連絡会発行)

◎周南市の新徳山駅ビル内図書館の運営を CCC へ打診に慎重な対応を求める！

藤村 聡

「中国新聞」(10月8日)等で報道されましたが、周南市は2018年開館予定の新徳山駅ビルに入る図書館の運営を、ツタヤを展開する CCC (カルチャ・コンビニエンス・クラブ) に打診しているとのこと。先月末に武雄市図書館を見学した結果からも、図書館への指定管理者導入の問題だけでなく、図書館の商業化など深刻な危惧もあり、周南市には慎重な対応を求めています。

当会としては、事実を確認するとともに、市と市議会に対する要請活動を今月末までに実施したいと思います。また、新駅ビルを核とする中心市街地の活性化が一時的な賑わいに終わらないように、図書館の望ましい管理運営を「図書館を学ぶ会」の開催等で市民と一緒に考えていきましょう。

◎武雄市図書館見学ツアーを実施しました！

藤村 聡

図問研山口支部と当会の共催で、9月30日(月)に武雄市図書館見学ツアーを実施しました。参加者は22人、約2時間弱の武雄市図書館見学の後、「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」と市文化会館で約1時間強の合同学習会を持ちました。前半は井上一夫代表によるパワーポイントでの改修前後などの解説、後半は感想を交えた質疑応答。同会の方々に心から感謝するとともに、当会も非力ではありますが応援することを約束しました。参加者の「武雄市図書館訪問記」を紹介します。

○「武雄市図書館を見学して考えよう！」に参加して

山口市立中央図書館友の会 瓜生泰子

9月30日、「武雄市図書館を見学して考えよう！」(図書館問題研究会山口支部主催、図書館友の会山口県連絡会共催)に参加しました。山口・広島から22名での武雄市図書館見学会で、図書館を自由見学した後、地元で活動をされている「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」代表の井上一夫さんの講話を聴き、市民の会の皆さんと意見交換をするというツアーです。

佐賀県武雄市は古くからある温泉地で、豊かな自然・歴史・文化を有した地です。それを体現する「武雄文化施設群構想」の中核を担うのが、武雄蘭学資料を収蔵する資料館と図書館が一体となった、改修前の「武雄市図書館・歴史資料館」でした。

しかし訪れた図書館は「スタバと図書館が付いた TSUTAYA」としか言えないものでした。歴史資料館側の外壁はオランダタイル張り、2億1千万円かけて設けた映像設備もありました。その、蘭学資料を常設展示していた空間に、今は有料レンタル DVD が所狭しと置かれています。

正面入り口から先に広がるのは販売書籍とスターボックスで、図書館はその奥に押しやられているように感じます。それに、事務室を縮小し書庫を無くし書架を高くした事で迷路の様な造りになり、館内表示もわかり難く、目的の資料を探すのが難しい図書館でした。図書館側の説明によると、これは「知を発見して」もらうための排架なのだそうです。

排架で驚いたのは、1階のキャットウォーク真下の書架上部、7段目以上の高さに児童書が延々と置いてある事です。一般エリアで美容やファッションの棚を見上げたら、落下防止バーに押さえられた“二十面相”や“ドリトル先生”のシリーズがあるというのはシュールな光景です。

そして、高所に延々と並べられた児童書が児童エリアにつながり、そのままその高さで絵本が面置きされていました。大人でも手の届かない高さに置かれた絵本は、飾りとしては素敵だと感じますが、書店の様に何冊もの複本を持たない図書館の展示としては落第点と言えるでしょう。

おはなしコーナーはオープンスペースで明るく開放感がありますが、館内に流れる音楽がダイレクトに入ってくるので、ボランティアによるおはなし会はやり難いだろうと感じました。また、幼児が使うスペースなのにトイレから遠いという事に驚きました。ちなみに館内のトイレは1ヶ所だけですが、改修前は4ヶ所あり、おはなしの部屋にはトイレと授乳室が併設されていたそうです。

防火扉の前に看板など物が置いてある事にも驚きました。職員には危険だと声をかけましたが、2階キャットウォークが建築基準法施行令第120条で定められた“避難階又は地上に通ずる直通階段”までの30メートルより長いために、一部立ち入り禁止になっている事実や、高所作業（危険作業）が必要な背の高い書架を導入した事、改修で床を張り替えスロープや段差が新たに出来た事で、車いすやベビーカーでの館内移動が以前より難しくなった事などから、ここは防災意識が低く人命を軽視した施設なんだと強く感じました。

ところで、売り物の新刊書や雑誌を読む人でスタバは盛況でしたが、武雄市図書館の目と鼻の先には“ゆめタウン”があり、同規模の書店や飲食店がここに入っているのです。武雄市図書館はその立地から、多額の税金を使ってまでカフェや書店を併設する必要は無い施設だという事です。市民の会代表・井上さんからは、改修前は持ち込んだ物を飲食出来るエリアがあったので、ゆめタウンでパンなどを買い、子どもでも図書館で一日過ごす事が出来たが、今の図書館ではそれは出来ないという話も聞きました。

今回、武雄市の図書館には改修など必要が無かった事、CCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）が図書館の指定管理者としての能力を備えていない事を改めて確信しました。

駆け足での武雄訪問でしたが、本当の図書館を取り戻す事を活動の目標に定めた“武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会”を、これからも応援して行こうと心の底から思った一日でした。

## ○参加者の意見・感想から

藤村 聡

・素晴らしかった教育・文化施設の武雄市図書館・歴史資料館が、ツタヤとスタバの商業・観光施設に改造された惨状に痛憤を感じながら見学し、子どもと高齢者を拒否する図書館との悲憤を覚えた。

・館内の壊滅的な改修工事と極安賃貸料での施設提供は、市長の独断暴走とチェック機能不全の議会による特定業者への便宜供与であり、今の賑わいも長続きはすまい。やはり監査請求すべきだろう。

・図書館での貸出に伴うTポイント付与は関係各業者の営利につながり、著作権法違反ではないか。また、子どもが読まないにも関わらずTポイント取得のために自動貸出機を利用するのも問題だ。

・1階のメイン部分をツタヤとスタバが占拠、図書館は奥側の暗い部分に押し込められて迷路のようになり、貸出図書は販売図書と見分けが難しいだけでなく、書架が頭上はるかに高く図書を取れない。児童コーナーも玄関から最も遠くて、狭く、お話しコーナーも落ち着かず、近くにトイレも無し。

・2階の閲覧バルコニーの書架も同様に高く、大脚立が置いてあるが本を取るのは危険極まりない。

・職員は非正規雇用で、年中無休・長時間開館のローテーションは厳しく、長期的な人材育成は困難。また、指定管理の図書館と書店のツタヤとで職務が融合しているのでないかと危惧される。

・蘭学館はCD・DVDの爛熟館に変貌、武雄の歴史や文化を大切に市民の心を踏みにじる暴挙だ。

・市民の会を広げていく運動は難儀だろうが、ねばり強く市民を巻き込みながら頑張りたい。